

全国の沿岸部に立地する神社の立地特性と海との関わり

The Location Characteristics of Shrines located on the Coast of the Country and the Relationship with the Sea

○石原汐莉¹, 菅原遼²

*Shiori Ishihara¹, Ryo sugahara²

Abstract : in this study, after collecting data on shrines located on the coast of the country, we captured the distribution status and distribution characteristics of shrines located in municipalities adjacent to the sea. It was confirmed that many shrines located on the coast are located in the Hokuriku region, the Shikoku region, the Kyushu region, etc. in western Japan. In the Shikoku and Kyushu regions, it was confirmed that the proportion of shrines that enshrined deities related to the sea is high. In addition, regarding the relationship between the distance from the coastline and the average altitude, when the distance is close, the average altitude is low, and as the distance gets farther, we were able to confirm the shrine with a high average altitude.

1. はじめに

我が国では、神社が全国各地に約 88,000 社以上立地しており、日本固有の宗教である神道の神々を祀ることで、神に感謝を伝えたり、幸せを祈願したりする場所として位置付けられてきた。また、神社は自然との関わりが非常に強い宗教的文化施設であり、古来より海上交通や貿易、釣りや漁等、海と密接に関わってきたことから、海に関する御祭神を祀る神社が全国に多数立地している。こうした沿岸部に立地する神社に関する研究は、佐藤らの水上鳥居を有する神社の鳥居と本殿の空間構成に関する研究^[1]や秋山らの海と神社との関わりや海の精神的恩恵に対する評価方法の検討^[2]等が報告されているが、全国の沿岸部に立地する神社の分布傾向とその特性に関する研究はみられない。

そこで本稿では、沿岸部に立地する神社を対象に、神社の分布状況及び特性を捉えることを目的とする。

2. 調査概要

Table1 に調査概要を示す。全国の沿岸部に立地する神社を整理するため、神社庁に登録されており、海に接している市区町村に立地する神社 29,697 社を対象に、名称、鎮座地に関するデータを収集した。その後、神社の立地特性を整理するため、QGIS を用いて神社の立地場所の平均標高、海岸線からの最短距離を算出した。

3. 沿岸部の神社の立地分布と海との関わり

3-1. 全国の沿岸部に立地する神社の分布状況

Table2 に全国の沿岸部に立地する神社の分布状況を示す。沿岸部に立地する神社の割合が 80%以上占めたのは、石川県、福井県、静岡県、山口県、愛媛県、香川県、長崎県、鹿児島県、沖縄県の計 9 県であった。

Table1. Suvey Outline

項目	概要
調査方法	Web調査 各都道府県神社庁, 日本の神社・寺院検索サイト[八百万の神]参照
調査対象	海に接している市区町村に立地する神社29,285社
調査項目	神社概要・分布状況・御祭神
調査期間	2023年6月~9月

Table2. The proportion of shrine located on the coast

都道府県	沿岸部	全域	沿岸部/全域	都道府県	沿岸部	全域	沿岸部/全域
北海道	328	602	54.5%	滋賀県	0	1,434	0.0%
青森県	556	733	75.9%	京都府	623	1,570	39.7%
岩手県	173	932	18.6%	大阪府	114	706	16.1%
宮城県	392	916	42.8%	兵庫県	1,934	4,012	48.2%
秋田県	431	1,109	38.9%	奈良県	0	1,305	0.0%
山形県	691	1,730	39.9%	和歌山県	289	413	70.0%
福島県	90	312	28.8%	鳥取県	421	777	54.2%
茨城県	364	2,466	14.8%	島根県	697	1,164	59.9%
栃木県	0	1,911	0.0%	岡山県	507	1,612	31.5%
群馬県	0	1,186	0.0%	広島県	355	1,042	34.1%
埼玉県	0	1,937	0.0%	山口県	727	750	96.9%
千葉県	177	3,154	5.6%	徳島県	547	1,301	42.0%
東京都	91	1,398	6.5%	香川県	730	770	94.8%
神奈川県	475	1,129	42.1%	愛媛県	1,054	1,241	84.9%
新潟県	2,789	4,700	59.3%	高知県	1,250	1,816	68.8%
富山県	1,383	2,098	65.9%	福岡県	398	3,806	10.5%
石川県	1,615	1,916	84.3%	佐賀県	671	996	67.4%
福井県	1,376	1,701	80.9%	長崎県	1,249	1,260	99.1%
山梨県	0	1,257	0.0%	熊本県	513	1,443	35.6%
長野県	0	2,459	0.0%	大分県	1,651	2,073	79.6%
岐阜県	0	827	0.0%	宮崎県	396	685	57.8%
静岡県	2,451	2,824	86.8%	鹿児島県	963	1,109	86.8%
愛知県	1,216	2,916	41.7%	沖縄県	10	10	100.0%
三重県	637	815	78.2%	全国	29,697	71,508	41.5%

その中でも、特に山口県、香川県、長崎県、沖縄県に関しては 90%以上が立地していた。地方別にみると東北地方、関東地方等の東日本には少なく、中国地方、四国地方、九州地方等の西日本及び北陸地方に多く立地していることが確認できた。これら西日本の神社に関しては、中国の寺院建築の影響を受けた建築形態となっており、中国からの遣唐使、遣隋使などの使節が航路として瀬戸内海や日本海を頻繁に利用していた

1 : 日大理工・学部・海建 2 : 日大理工・教員・海建

めであると考えられる。また、北陸地方については、8～9世紀に盛んであった渤海との交流で、北陸が玄関口として機能していたためであると考えられ、能登、加賀、若狭、越前がその交流と深く関わっていた。[3] 仏典などの大陸の文化・文物をもたらし、日本と唐の中継貿易を行うなど、文化・経済面で大きな役割を果たす当時の最先端の文化的先端地であったため、多くの寺社が創建されたと考えられる。

3-2. 沿岸部に立地する神社が祀る御祭神の特性

Table3 に海に関連する御祭神, Table4 に海岸線から神社までの最短距離が 500m未滿の分布状況を示す。海岸線からの距離が 500m未滿に立地する神社は全国に 2,963 社 (4.1%) 存在し、地方別にみると九州地方が最も多く 729 社立地していた。また、海に関する御祭神に着目すると、近畿地方及び四国地方が 40%以上と高い割合で祀られていることが確認でき、これらの地方においては意図的に沿岸部に創建された神社が多いと考えられる。全国において海に関する御祭神を祀る神社は、最短距離 100m未滿に立地する神社 417 社中 126 社 (30.2%) で確認できた。御祭神別に見ると宗像三女神は 27 社、住吉三神は 18 社、蛭子命は 21 社、事代主神は 16 社、海神は 6 社、金毘羅神は 5 社、その他海に関する御祭神は 33 社で祀られていた。

3-3. 沿岸部に立地する神社の分布特性

Fig1 に地方別にみた最短距離と平均標高の関係を示す。全国に共通点として、神社の立地場所と海岸線との距離が近いほど平均標高は低く、一方で海岸線との距離が遠いほど平均標高が高い場所に立地する神社が多くなるのがわかる。100m未滿に立地している神社数が多い市町村は、八幡浜市が 12 社、知多郡南和多町と赤石市が 10 社が 3 か所確認できた。

4. おわりに

本稿では、全国の沿岸部に立地する神社のデータを収集した上で、海に接している市区町村に立地する神社の分布状況及び特性を捉えた。今後は、神社の立地分布を踏まえ、水害や生業等の地域固有の条件から神社と海との関わりについて検討していく。

参考文献

[1]佐藤信治ら：「社の空間構成に関する研究 その8 神社の水上鳥居とその参道空間について」, 日本大学理工学部 学術講演会予稿集, J-40, pp.641-642, 2015
 [2] 秋山吉寛ら：「神社と関連する海の精神的恩恵の定量評価に関する検討」, 沿岸域学会, Vol.30, No.3,

Table3.The enshrined deity related to the sea

名称	別称	神格	神徳
スミヨシサンジ 住吉三神	住吉神 墨江之三前大神 住吉大神 筒男三神等	海の神 航海の神	海上安全 漁業守護 貿易守護
ムナカタサンジ 宗像三女神	道主貴 宗像大神等	海の神 交通運輸の神	海上安全 豊漁
ウツツミ 海神	綿津見神 海童神 少童三神 日向大明神等	海の神 祓いの神	航海安全 豊漁 浄化
コトシロメシカミ 事代主神	八重言代主神 玉櫛入彦巖之事代神等	海の神	海上安全 豊漁
エビスノミコト 蛭子命	水蛭子神 水蛭子 戎大神 恵比寿等	海の神 漁業の神	豊漁繁栄 航海安全
コンヒラ シン 金毘羅神	金毘羅権現 金毘羅大権現 護法善神金毘羅等	漁業の神 船の神 航海の神	航海安全 海難除け 大漁祈願

Table4.The distribution of shrines whose shoetest distance from the coastline is less than 500 metres

	100m未滿	100m-200m	200m-300m	300m-400m	400m-500m	計
北海道・東北地方	60(12)	79	66	63	67	335
関東地方	18(4)	34	37	35	31	155
中部地方	122(32)	125	156	132	139	674
近畿地方	47(19)	60	83	79	81	350
中国地方	36(14)	55	77	77	56	301
四国地方	55(22)	77	109	98	80	419
九州・沖縄地方	89(25)	164	146	168	162	729
計	427(126)	565	663	634	604	2,963

※ () 内は海に関する御祭神を祀る神社の数



Figure1.The relationship between the altitude of the distance from the coastline of the shrine's location

pp.91-102, 2017

[3] 国土交通省 北陸信越運輸局「多様で豊かな地域資源を活かした北陸地域の交流活発化に資する仕組みづくりに関する研究報告書」, pp67-77, 2009.3